

令和4年度における取組等に対するその後の対応報告及び評価

開催日	学外委員からの質疑・意見	その後の取組状況	自己評価	経営協議会での評価	評価に関する学外委員からのコメント
令和4年度 第4回 令和4.12.15 (木)	<p>外部資金等の獲得方策について</p> <p>○ 外部資金の獲得に向け、大学での取組のアピールをして寄附金を募るなど、積極的に行うべきではないか。</p>	<p>【概要】 外部資金等の獲得方策の一環として、第4期中期計画(No.24)において、「未来基金の受入額」や「寄附金等の経営資金獲得手法数」を評価指標に設定して取り組んでいる。</p> <p>【取組状況】 (寄附金の受入) 令和5年度は、課外活動等支援・学生表彰受賞学生への支援の寄附など、活用状況等をまとめた「未来基金リーフレット」を後援会、同窓会、学内教職員等に配布した。これまで、元学長、同窓生、同窓生の知人から500万円以上の3件の寄附があったことを踏まえて、このような取組を積極的に行っている。 この結果、「未来基金の受入額」は、第3期中期目標期間(令和28年度～令和3年度)の受入額26,269千円に対して、第4期中期目標期間(令和4年度～令和9年度)の2年目にあたる令和5年12月末時点で50,103千円に達しており、取組の成果が上がっている。</p> <p>(新たな経営資金獲得手法の導入) 令和5年度は、「金融機関との遺言信託業務協定書の締結」、「附属学校園支援事業基金の新設」、「入学試験の成績開示手数料の有料化」など、新たに8件を導入した。 この結果、「寄附金等の経営資金獲得手法数」は、第3期中期目標期間の実績値である10件に対して、第4期中期目標期間の2年目にあたる令和5年度末時点で令和4年度に導入した6件に8件が加わり、合計14件に達する見込みである。</p>	○	○	特になし
	<p>○ 全ての先生方の専門領域を活用した企業等とのマッチングについて、具体的にどのような形でマッチングを図る予定か。マッチングの方策を決めていかないと受託研究や共同研究につなげるのは難しいところがある。</p>	<p>共同研究等の外部資金獲得につなげるための方策として次のとおり実施した。 ①研究シーズ原稿の募集を行い、提供があった教員のシーズを集約し、本学HPに掲載し外部に公開した。 ②企業向けの統合報告書を作成した。 ③①及び②を連携企業や本学OBの就職先企業へ送付し本学のシーズ、共同・受託研究担当窓口を案内した。</p>	△	△	今後とも、更に取り組んでいただきたい。
令和4年度 第4回 令和4.12.15 (木)	<p>自治体と受託研究・共同研究を行うことについて</p> <p>○ 地方自治体に対して過去の大学の受託研究の内容や成果を説明して、マッチングを図ったらどうか。</p>	<p>地方自治体からの依頼に基づいた過去の受託研究について事例を整理しHPへ掲載し外部へ公開した。 また、上段③同様、本学OBの就職先自治体へ送付した。</p>	△	△	今後とも、更に取り組んでいただきたい。

【評価方法について】

・令和4年度に学外委員から出た本学の取組等に対する意見について、令和5年度(今年度)にどのように取組んだかを報告し、評価を受ける。

【評価基準について】

・今年度の取組状況について以下の評価基準で評価を受け、併せて評価に対する学外委員からのコメントをいただく。

「○」:十分に取り組んでいる。(引き続き取組を期待する。)

「△」:取組は行われているものの更なる取組を期待する。

「×」:全く取組めていない。